

【評価シート】

○基本目標

〔評価基準〕

◎	目標を上回る達成	目標値を 100% 以上達成した場合
○	目標を概ね達成	目標値との乖離幅が ± 5 % 以内の場合
△	目標を未達成	目標値との乖離幅が ± 5 % を超えている場合

ごみ総量（生活ごみと事業ごみの合計）		評 価	○			
R1 年度見込み	374,000 t					
R2 年度目標値	360,000 t			あと 14,000 t の減量が必要		
実績・ 調査結果等	◎人口・世帯数	H21年度	H26年度	R1年度		
	人口（10/1現在）	1,033,515	1,073,242	1,090,263		
	世帯数（10/1現在）	457,145	491,423	520,556		
	◎ごみ総量	H21年度 （基準年度）	H26年度 （中間見直し）	R1年度 （見込）	R2年度 （目標）	
	ごみ総量	366,785	385,863	374,000	360,000	
	生活ごみ	231,519	242,958	235,000	238,000	
	事業ごみ	135,266	142,905	139,000	122,000	
		（単位：t）				
	◎1人1日当たりの排出量	H21年度	H26年度	R1年度（見込）		
	ごみ総量	972	985	932		
	生活ごみ量	614	620	584		
	事業ごみ量	359	365	348		
		（単位：g/人・日）				
考察	目標を概ね達成する見込み。震災前年度の水準に戻りつつある。1人1日当たりの排出量では、H21年度の972gに対し、R1年度（見込）は約932gとなっており、人口が増加している一方で、ごみの排出量は減少している。					
課題	生活ごみ量は目標値よりも減量が進んでいるものの、事業ごみについては、目標値との乖離が大きく、事業者向けにごみ減量・リサイクル、適正排出を働きかけていく必要がある。					

(基本目標)

1人1日当たりの家庭ごみ排出量		評 価	○		
R1年度見込み	461g				
R2年度目標値	450g あと11gの減量が必要				
実績・調査結果等	◎1人1日当たりの家庭ごみ排出量	H21年度	H26年度	R1年度(見込)	
		490	489	461	
		(単位：g/人・日)			
	◎生活ごみ(内訳)	H21年度	H26年度	R1年度(見込)	R2年度(目標)
	生活ごみ	231,519	242,958	235,000	238,000
	家庭ごみ	184,812	191,381	183,800	177,000
	資源物	43,184	47,775	47,000	56,000
	粗大ごみ等	3,523	3,802	4,200	5,000
		(単位：t)			
	◎家庭ごみ組成	H21年度	H26年度	H30年度	
	資源化可能なもの	38.3%	48.1%	41.5%	
	紙類	25.2%	32.0%	22.9%	
	新聞紙	3.1%	5.5%	3.1%	
	段ボール	0.8%	1.3%	1.4%	
	紙パック	1.1%	0.9%	0.9%	
	雑誌	2.3%	7.7%	4.1%	
	雑がみ	17.9%	16.6%	13.4%	
	プラスチック製容器包装	8.4%	10.5%	11.2%	
	缶・びん・ペットボトル	1.5%	1.7%	1.1%	
	缶	0.8%	0.8%	0.6%	
	びん	0.5%	0.5%	0.3%	
	ペットボトル	0.2%	0.4%	0.2%	
	布類	3.2%	3.9%	6.3%	
生ごみ	41.8%	31.3%	32.7%		
資源化できないもの	19.9%	20.6%	25.8%		
製品プラスチック	3.3%	3.7%	5.3%		
その他	16.6%	16.9%	20.5%		
	※環境局施設課検査係が毎月3工場を実施する家庭ごみの物理的組成調査結果より				
考察	目標を概ね達成する見込み。人口が増加している一方で、家庭ごみの排出量は減少している。				
課題	家庭ごみへの資源物混入は、未だ約4割あることから、引き続き分別についての広報や啓発に努めるとともに、資源循環に関する情報発信や教育にも力を入れていく必要がある。				

(基本目標)

リサイクル率						評価	△
R1年度見込み 29%							
R2年度目標値 35% あと6ポイントの引き上げが必要							
実績・調査結果等	(リサイクル率算定式)						
	◎リサイクル率	リサイクル総量	H21年度	H26年度	R1年度(見込)	R2年度(目標)	
	リサイクル率	ごみ総量+民間リサイクル量	30.9%	29.9%	28.9%	35.0%	
	◎リサイクル量		H21年度	H26年度	R1年度(見込)	R2年度(目標)	
	本市リサイクル量		45,013	47,250	44,900	56,000	
	缶・びん・ペットボトル等		17,985	17,759	17,400	18,000	
	プラスチック製容器包装		12,528	11,999	13,000	15,000	
	紙類定期回収		10,753	14,258	11,500	19,000	
	その他(堆肥化、剪定枝等)		3,747	3,234	3,000	4,000	
	民間リサイクル量		99,018	96,854	88,000	109,000	
	集団資源回収等		33,277	31,553	26,300	32,000	
	大規模建築物所有者等		46,131	43,464	45,100	47,000	
	事業系紙類(許可業者収集)		9,677	15,384	11,400	17,000	
その他(養豚飼料、民間堆肥化等)		9,933	6,453	5,200	13,000		
リサイクル量		144,031	144,104	132,900	165,000		
(単位: t)							
考察	<p>目標達成は厳しい状況である。排出されるごみ量は減少しているものの、リサイクル量も減少したことによりリサイクル率が伸び悩んでいる。</p> <p>特に、紙類のリサイクル量や生ごみ等の堆肥化・飼料化量について、ペーパーレス化や養豚事業の縮減等の影響により、目標値との乖離が大きくなっている。</p>						
課題	<p>家庭ごみ、事業ごみには未だ資源化可能な紙類の混入が見られ、引き続き分別徹底に向けた取り組みや、家庭系剪定枝の分別排出をはじめとするバイオマスリサイクルについて取り組みを進めていく必要がある。</p> <p>共働きや高齢世帯の増に伴う「中食」によるプラスチック製容器包装の排出への対応や、家庭系剪定枝の分別排出をはじめとするバイオマスリサイクルについて、取り組みを進めていく必要がある。</p>						

燃やすごみの量						評価	△
R1年度見込み 323,000 t							
R2年度目標値 305,000 t あと18,000 tの削減が必要							
実績・調査結果等	◎燃やすごみの量(内訳)						
	燃やすごみの量	H21年度	H26年度	R1年度(見込)	R2年度(目標)		
	燃やすごみの量	316,591	333,424	323,000	305,000		
	家庭ごみ量	184,812	191,381	183,800	177,000		
	事業ごみ(可燃)量	96,196	103,278	99,000	92,000		
	自己搬入(焼却)量	6,368	6,326	7,000	6,000		
粗大ごみ破碎処理後残渣等	29,215	32,439	33,200	30,000			
(単位: t)							
考察	<p>東日本大震災後に、災害廃棄物による焼却量の増加も見られたが、家庭ごみの減量や資源物の分別の効果で減少傾向にある。目標達成までもう一步の状況。</p>						
課題	<p>食品ロスやワンウェイプラスチックの削減によるごみの発生抑制を進めるほか、剪定枝の資源化を推進するなど、焼却量の更なる削減に取り組む必要がある。</p>						

○実施・検討すべき施策

〔評価基準〕

◎	目標を上回る達成	予定より早期又は効果的に達成した場合
○	目標を概ね達成	予定どおり実行できた場合
△	目標を未達成	未実施又は実施したが効果的ではなかった場合

(1) 資源循環都市づくり

① 生活ごみの減量・リサイクルの推進		評価	○	
ア) 生ごみの減量・リサイクルの推進				
実績・調査結果等	◎生ごみ混入割合	H21年度	H26年度	H30年度
	家庭ごみに含まれる生ごみの割合※	42%	31%	33%
	重量換算 (t)	77,300	59,900	60,000
	※環境局施設課検査係が毎月3工場で開催する家庭ごみの物理的組成調査結果より			
	◎生ごみ堆肥化容器購入費補助等実績	H21年度	H26年度	H30年度
	生ごみたい肥化容器購入費補助 (基)	709	267	198
	家庭用電気式生ごみ処理機購入費補助 (台)	786	186	184
	乾燥生ごみ回収実績 (kg)	16,094	7,713	6,134
	◎生ごみ減量・食品ロス削減に関する施策の認知度 (R1年度実態調査「市民アンケート」)			
	生ごみ堆肥化容器・電気式生ごみ処理機購入補助		42.8%	
食品ロス削減に関するセミナー		7.0%		
フードドライブ		8.4%		
レシピ投稿サイト「モッタイナイキッチン」		5.1%		
乾燥生ごみ野菜交換事業		17.6%		
実施状況	「生ごみ堆肥化容器等購入費補助事業」、「3つのきる」キャンペーンによる生ごみ減量化の取り組みとともに、食品ロス削減に向けたレシピ投稿サイト「モッタイナイキッチン」の開設、余剰食品の有効活用を図る「フードドライブ」、家庭での食品ロスの発生要因調査等を実施し、生ごみの減量・リサイクルを推進している。			
課題	R1年度に実施した市民アンケートでは、フードドライブへの協力や生ごみの堆肥化に取り組みたいとのニーズがあった一方で、「フードドライブ」や「モッタイナイキッチン」などの認知度は10%以下となっており、認知度向上に向けた取り組みが必要である。 また、H30年・R1年度に実施した「食品ロスダイアリー」の結果を踏まえ効果的な働きかけが必要である。			

① 生活ごみの減量・リサイクルの推進		評価		○			
イ) 再生可能な紙類の分別徹底							
実績・調査結果等	◎紙類回収量実績	H21年度	H26年度	H30年度			
	集団資源回収量	27,817	22,904	17,532			
	紙類拠点回収量	3,977	7,249	8,176			
	紙類定期回収量	10,753	14,258	12,028			
	計	42,547	44,411	37,736			
	(単位：t)						
	◎家庭ごみ組成 (実態調査「組成調査」)						
	主な分類	紙類	厨芥類	プラスチック類	布類	木類	その他
	R1年度	29.5%	28.0%	14.0%	9.8%	6.8%	11.9%
	前回 (H26年度)	28.4%	38.6%	10.9%	6.8%	4.8%	10.5%
◎家庭ごみに含まれる紙類のうち再生可能な紙類の割合 (実態調査「組成調査」)							
		再生可能な紙類	容リ対象	容リ対象外			
R1年度		12.9%	4.7%	8.2%			
前回 (H26年度)		15.3%	3.9%	11.4%			
実施状況	<p>「集団資源回収」、「紙類拠点回収」、「紙類定期回収」による分別収集を実施している。</p> <p>また、雑がみ回収袋を作成し、イベント等で配布し雑がみの分別啓発に努めているほか、学生主体の分別プロジェクトチーム「ワケアップキャンパス」の活動による若者をターゲットとした情報発信を展開するなど効果的な紙類の分別に取り組んだ。</p> <p>加えて、コーティング加工された紙容器 (ヨーグルトの容器等) の再生利用に向けて、市民センター等に設置している資源回収庫において分別回収を開始した。</p>						
課題	<p>R1年度に実施した家庭ごみ組成調査では、家庭ごみへ紙類の混入割合は依然3割程度で、うち再生可能な紙類は12.9%となっていることから、引き続き再生可能な紙類の分別啓発を進めていく必要がある。</p>						

① 生活ごみの減量・リサイクルの推進				評価	○
ウ) 不適正排出・不法投棄対策の徹底					
実績・調査結果等	◎集積所設置数	H21年度	H26年度	H30年度	
	集積所数(箇所) ※3月31日現在	18,204	19,771	21,861	
	◎不法投棄等処理量	H21年度	H26年度	H30年度	
	不適正排出物・不法投棄の処理件数	2,052	2,367	2,486	
	うち不適正排出物処理件数	1,657	2,240	2,277	
	不適正排出物・不法投棄の処理量(t)	111	66	71	
実施状況	<p>ごみ集積所の設置箇所数の増に伴い、不適正排出の発生件数は増加傾向となっている。地域でごみ減量・リサイクルに取り組むクリーン仙台推進員や町内会、収集委託業者と連携し、排出ルールへの周知・啓発を行うとともに、パトロールによる不法投棄等の早期発見に取り組んでいる。</p> <p>また、不法投棄等が頻繁に発生する場所には、監視カメラや不法投棄等防止看板を設置するなどの防止策を講じている。</p>				
課題	<p>ごみ集積所への不適正排出物について、環境事業所と地域が連携し、状況に応じた適切な対策を講じる必要がある。また、不法投棄防止策についても継続的にパトロール等を実施していく必要がある。</p>				

① 生活ごみの減量・リサイクルの推進 ※②事業ごみを含む				評価	○
エ) 生ごみ・剪定枝など廃棄物系バイオマスなどのリサイクル手法の検討					
実績・調査結果等	◎家庭系剪定枝資源化量	H30年度	R1年度		
	戸別収集量	57.68	107.35		
	自己搬入量	—	86.22		
	計	57.68	193.57		
		(単位：t)			
	◎事業系バイオマスのリサイクル	H21年度	H26年度	H30年度	
	市堆肥化センター処理量	1,475	1,096	875	
	廃棄物系バイオマス民間施設処理量	4,534	3,253	2,409	
	剪定枝等のチップ化	1,909	585	1,574	
	学校給食残渣の養豚飼料回収量	3,490	2,615	1,294	
計	11,408	7,549	6,152		
	(単位：t)				
実施状況	<p>家庭から発生する剪定枝について、H30年度より新たに分別収集資源化事業を実施している。</p> <p>事業系バイオマスについては、民間事業者によるリサイクルのほか、市堆肥化センターの堆肥化や養豚飼料としているが、リサイクル量が減少している。</p>				
課題	<p>家庭系剪定枝の資源化について引き続き取り組みを進めるとともに、事業系バイオマスリサイクル量の増に向け推進するなど、更なる資源循環を進める必要がある。</p>				

② 事業ごみの減量・リサイクルの推進	評価	◎			
実績・調査結果等	◎事業用大規模建築物所有者等及び多量排出事業者による資源化量				
		H21年度	H26年度	H30年度	
	対象事業者数	1,088	1,084	1,084	
	資源化量 (t)	45,670	42,960	44,300	
	◎事業系紙類拠点回収		H21年度	H26年度	H30年度
	事業系紙類資源化量	402	309	214	
	学校における古紙回収量	457	503	519	
			(単位: t)		
	◎訪問指導件数		H21年度	H26年度	H29年度
	大規模・多量事業者対象	46	45	281	
	※H29年度より環境事業所から事業ごみ減量課に集約。				
	◎訪問指導件数(調査後)		H30年度	R1年度	
	全排出事業者対象	1,255	833		
	※R1年度の件数は1月末現在				
	◎エコにこマイスター認定事業者数等		H21年度	H26年度	H30年度
認定事業者数	564	453	486		
※H30年度からエコにこマイスター認定制度へ移行(学校や病院など認定事業者を拡大)					
◎ごみ減量・リサイクルの取り組み状況(実態調査「事業者アンケート」)					
□普段から取り組んでいること	H26年度	R1年度			
コピー用紙などの裏面利用	81.1%	82.9%			
コピー枚数削減の指導・推進	60.9%	70.4%			
再生紙(コピー用紙等)の利用	67.2%	66.0%			
◎事業ごみ(可燃ごみ)の組成(実態調査「ごみ組成調査」)					
主な分類	紙類	厨芥類	プラスチック類	その他	
R1年度	40.2%	25.2%	19.7%	14.9%	
前回(H26年度)	42.9%	24.7%	22.0%	10.4%	
◎事業ごみ(可燃ごみ)に含まれる紙類のうち再生可能な紙類の割合(実態調査「組成調査」)					
	再生可能な紙類	容リ対象	容リ対象外		
R1年度	19.5%	7.7%	11.8%		
前回(H26年度)	21.7%	6.8%	14.9%		
実施状況	<p>大規模建築物所有者及び多量排出事業者に対してごみ減量・適正処理に関する計画書の提出を求め、必要に応じ訪問指導を実施している。</p> <p>また、排出事業者の資源物分別を促進するため、事業系紙類回収庫の設置や事業系生ごみ処理機購入補助等の支援を行っているほか、環境に配慮した事業者を「エコにこマイスター・エコにこゴールドマイスター」として認定する制度を運用している。</p> <p>さらに、H30年度から展開検査装置を導入し、事業ごみの内容物検査の強化を図るとともに、清掃工場等のごみ処分手数料引き上げ(1,000円/100kg⇒1,500円/100kg)を実施し、事業ごみの減量を進めた。</p>				
課題	<p>R1年度に実施した事業者アンケートでは、「コピー用紙などの裏面の利用(82.9%)」、「コピー用紙の使用削減(70.4%)」、「再生紙の利用(66.0%)」と、前回調査と比較すると全体的に紙類の減量・リサイクルの取り組みが向上している。</p> <p>一方で同年度に実施したごみ組成調査では、紙類の混入が未だ4割を超える結果となっており、うち再生可能な紙類は21.7%を占めているため、更なる事業者向けの分別啓発と適正排出指導を進める必要がある。</p>				

③ ごみの適正処理体制の確立		評価	○
実施状況	<p>年度毎に一般廃棄物処理実施計画を策定し、家庭・事業者から排出される廃棄物の適正処理に努めている。</p> <p>また、葛岡工場基幹改良工事（H26.10～H29.3）において、省エネルギーや高エネルギー回収設備の導入を図るとともに、今泉工場基幹改良工事（H29.10～）や松森資源化センター基幹改良工事（R1.10～）においても同様に、効率的な処理体制の構築に努めている。</p> <p>最終処分量については、震災の影響により処分量が急増したため、H30年10月から石積埋立処分場（第2期）の埋立を開始し、処理体制の安定・維持に努めている。</p>		
課題	<p>処理施設の改修や基幹改良工事における省エネルギー・高エネルギー回収設備の導入を図るとともに、頻発する災害に対応するため、平常時からの備えや広域処理等を踏まえ、災害廃棄物処理対策の充実を図っていく必要がある。</p>		

(2) 低炭素都市づくり

① 燃やすごみの量の削減【再掲】						評価	△
実績・調査結果等	◎燃やすごみの量（内訳）	H21年度	H26年度	R1年度（見込）	R2年度（目標）		
	燃やすごみの量	316,591	333,424	323,000	305,000		
	家庭ごみ量	184,812	191,381	184,000	177,000		
	事業ごみ（可燃）量	96,196	103,278	99,000	92,000		
	自己搬入（焼却）量	6,368	6,326	7,000	6,000		
	粗大ごみ破碎処理後残渣等	29,215	32,439	33,000	30,000		
(単位：t)							
実施状況	<p>ごみの発生抑制に加え、資源物の分別徹底や家庭系剪定枝等の新たな資源化事業を実施し、燃やすごみ量の削減を進めているほか、事業ごみ等を清掃工場に搬入する際の処分手数料引き上げ（1,000円/100kg⇒1,500円/100kg）を実施するなど、燃やすごみの量の発生抑制に努めた。</p>						
課題	<p>食品ロスやワンウェイプラスチックの削減によるごみの発生抑制を進めるほか、剪定枝の資源化を推進するなど、焼却量の更なる削減に取り組む必要がある。</p>						

② 収集運搬における温室効果ガスの低減		評価	○
実施状況	<p>ごみ収集運搬受託者へ対して、環境負荷低減型の収集車両を使用するよう働きかけるとともに、環境事業所が使用する車両の低公害化（BDF使用車両、天然ガス使用車両の導入）を図っている。</p>		
課題	<p>引き続き環境負荷低減型の収集車両使用の導入を働きかける。特に、脱炭素社会の形成に向けてEVパッカー車の導入等について検討する必要がある。</p>		

③ 中間処理・最終処分における温室効果ガスの低減		評価	◎	
実績・調査結果等	◎焼却工場における発電状況の推移			
		H21年度	H26年度	H30年度
	場内消費量	60,704,060	55,023,101	50,366,461
	他施設供給量	5,982,200	5,936,120	5,768,950
	売却電力量	40,332,350	57,759,139	71,812,609
	収入額(千円)	326,451	1,096,472	894,726
	使用発電量計	107,018,610	118,718,360	127,948,020
(単位: kwh)				
実施状況	<p>焼却工場における蒸気の施設内利用、温水プール等への供給、自家発電(工場内利用、売電)での利用を行うとともに、大規模基幹改良工事において、発電能力の増強や省エネルギー設備の導入等を行い、温室効果ガスの削減を図っている。</p> <p>また、石積埋立処分場では浸出水処理水を仙台市内まで後方輸送のうえ、下水放流していたが、平成27年度から着工した第2期整備において松森工場まで放流管を敷設し、運搬車両の排ガス抑制を図った。</p>			
課題	<p>ごみの発生抑制・リサイクルの推進により、焼却量及び温室効果ガスの削減を図る必要がある。</p> <p>また、より環境負荷の少ない処理施設となるよう設備更新等に際し、検討を行う必要がある。</p>			

④ 温室効果ガス排出量の定量評価手法の導入の検討		評価	△
実施状況	<p>「地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく地方公共団体の事務及び事業に係る温室効果ガス総量算定ガイドライン(H23.10 環境省)」、「廃棄物処理部門における温室効果ガス排出抑制等指針マニュアル(H24.3 環境省)」及び「温室効果ガス排出量算定・報告・公表資料について温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(H28.7 経済産業省・環境省)」など、国で示す算定手法を踏まえ、他都市計画における位置づけや目標設定等への算出方法について調査・研究を行った。</p>		
課題	<p>循環型社会及び脱炭素社会への配慮という観点から、引き続き定量評価手法の導入について調査・検討を進めていく必要がある。</p>		

(3) 市民・事業者・市の連携や三者が一体化した施策の推進

① 実践につながりやすい広報・啓発事業の展開		評価	◎						
実績・調査結果	<p>◎市のごみ減量・3R推進に関する取り組みの認知度（R1実態調査「市民アンケート」）</p> <p>□よく知っている、知っている、聞いたことがあると回答した割合</p> <table border="1"> <tr> <td>「ワケアップ! 仙台」をキャッチコピーとしたごみ減量キャンペーン</td> <td>46.1%</td> </tr> <tr> <td>ごみ分別・減量に関するホームページ「ワケルネット」やスマートフォン分別アプリ「さんあ〜る」</td> <td>35.6%</td> </tr> <tr> <td>「ワケルくん」を使った広報・啓発</td> <td>77.0%</td> </tr> </table>			「ワケアップ! 仙台」をキャッチコピーとしたごみ減量キャンペーン	46.1%	ごみ分別・減量に関するホームページ「ワケルネット」やスマートフォン分別アプリ「さんあ〜る」	35.6%	「ワケルくん」を使った広報・啓発	77.0%
「ワケアップ! 仙台」をキャッチコピーとしたごみ減量キャンペーン	46.1%								
ごみ分別・減量に関するホームページ「ワケルネット」やスマートフォン分別アプリ「さんあ〜る」	35.6%								
「ワケルくん」を使った広報・啓発	77.0%								
実施状況	<p>H28年度から「ワケアップ! 仙台」をキャッチコピーとしたごみ減量キャンペーンを開始し、資源物分別プロジェクトチーム「ワケアップキャンパス」による若者向け雑がみ回収袋の作成や大学祭等でのイベント開催など啓発活動を実施したほか、食品廃棄物の発生抑制を目的としたレシピ投稿サイト「モッタイナイキッチン」の開設や、市民団体・事業者・市で構成する「アメニティ・せんだい推進協議会」によるごみ減量・リサイクル等のイベント「エコフェスタ」を毎年開催するなど、三者協働によるごみ減量・リサイクルに取り組んできた。</p> <p>また、転入者等を対象に、ごみ分別辞典「資源とごみの分け方・出し方」を配布しているほか、外国人住民を対象に、多言語によるごみ分別に関するDVD作成や動画のホームページへの掲載（6か国語）を行っている。このほか、ホームページ「ワケルネット」やスマートフォン分別アプリ「さんあ〜る」等、インターネットを活用した広報にも取り組んでいる。</p>								
課題	<p>引き続き市民・事業者・市が一体となった三者協働による取り組みを進めていくとともに、少子高齢化の進展や外国人住民の増等の状況変化にも対応しながら、市民の認知度が高いワケルくんを活用する等、広報・啓発事業を展開していく必要がある。</p>								

② 地域課題の解決に向けた取組みの推進		評価	◎
実績・調査結果等	<p>◎「ワケルくんの五つ星☆集積所診断」認定証の交付数（H30年度） 応募者数（72か所）、認定証交付数（53か所）</p> <p>◎地域ごみ出し支援活動促進事業登録団体数（H30年度） 登録団体数（19団体）</p>		
実施状況	<p>H26年度にごみ集積所の清潔保持と不適正排出の防止に向けて「ワケルくんの五つ星☆集積所診断」認定証制度を開始したほか、H28～29年度にクリーン仙台推進員と全庁職員による排出実態調査・啓発活動「ごみ集積所調査啓発キャラバン」を実施した。</p> <p>H30年度からは、ごみ出しが難しい高齢者や障害等の世帯へのごみ出し支援活動を行う団体を対象とする助成金交付事業を開始している。</p>		
課題	<p>ごみ集積所の清潔保持や排出ルールの徹底は、地域の身近な問題であり、地域においてごみ減量・リサイクルや環境美化など、課題解決に取り組むリーダーであるクリーン仙台推進員と連携し、取り組みを進めていく必要がある。</p> <p>また、少子高齢化の進展等に伴う課題への対応として、ごみ出し支援の促進を図っていく必要がある。</p>		

③ ごみ減量・リサイクルの推進に係る人・組織づくり		評価	○	
実績・調査結果等	◎クリーン仙台推進員等の委嘱状況	H21年度	H26年度	H30年度
	クリーン仙台推進員	2,587	2,260	2,484
	クリーンメイト	1,502	1,513	1,699
	(単位：人、翌年度4月1日現在)			
	◎集団資源回収実施状況	H21年度	H26年度	H30年度
	実施団体数	1,332	1,322	1,322
	子供会	950	909	871
	町内会	195	225	260
	マンション管理組合	151	157	161
	その他	36	31	30
回収総量 (t)	28,898	23,879	18,403	
回収収益金 (万円)	8,769	10,985	8,727	
市奨励金 (万円)	11,935	10,135	8,161	
実施状況	<p>地域に根ざしてごみ減量・リサイクルを推進するクリーン仙台推進員の活動を支援するため、研修会や事例発表会を定期的実施するとともに、集団資源回収実施団体に対する奨励金の交付や、町内会や子供会等の実施団体への事業説明会や回覧用リーフレット・集積所表示幕の提供などの支援を行っている。</p> <p>また、市民が積極的に参加できる取り組みとしてポイ捨てごみの調査・清掃活動であるアレマキャンペーンを継続している。</p>			
課題	<p>クリーン仙台推進員制度、集団資源回収制度及びまち美化活動について、引き続き主体的な取り組みを推進するとともに、若者等の参加を促進する仕組みづくりが必要である。</p>			

○ 処理施設の整備計画

処理施設の整備計画		評価	○
実施状況	<p>焼却工場については、施設に求められる性能水準を確保するための長寿命化計画を策定し、それに基づき施設性能の長期に渡る維持及び性能の低下に対する必要な設備・機器更新や基幹改良工事等を実施している。</p> <p>また、最終処分量については、震災の影響による処分量の急増に対応するため、H30年10月から石積埋立処分場（第2期）の埋立を開始し、処理体制の安定・維持に努めている。</p> <p>さらに、松森資源化センターの基幹改良工事に際し、スプレー缶処理機を1基増設し、穴開け不要で排出できる体制の整備を行った。</p>		
課題	<p>焼却工場の長寿命化計画に基づき、引き続き安定した処理施設の確保に努めるとともに、熱回収等の高効率化や様々な災害に適応可能な施設整備を計画的に進めていく必要がある。</p> <p>また、市堆肥化センターの老朽化に伴うあり方等について、下水道の普及によるし尿汚泥発生量の減少や民間施設の稼働状況を踏まえながら引き続き検討する必要がある。</p>		

○ 処理体制

処理体制		評価	○
実施状況	<p>安定的なサービスを維持するため、ごみ量の予測やごみ処理施設の整備状況を踏まえた搬入調整を行うとともに、家庭ごみ等の収集運搬業務委託を8年契約とし、安定的・効率的な収集体制を構築した。</p> <p>また、清掃工場に事業系一般廃棄物の展開検査装置を導入し、不適正排出物の持ち込み防止を図った。</p>		
課題	<p>安定的・効率的なごみ収集・処分を行うため、引き続き計画的な施設のメンテナンスや搬入調整を図る等、持続可能な資源循環社会の構築に向けて、リサイクル可能な資源物の分別・処理体制を検討していく必要がある。</p>		